

## 自己評価報告書(最終報告)

報告者

芸術系コース(美術)  
／岩佐 博久

## ■平成24年度の目標に対する自己点検・評価

## I. 学長の定める重点目標

## I-1. 科研費申請に向けた計画等

国立大学法人運営費交付金は年々削減され、教員の研究費配分も厳しくなっており、教員各自が研究のための外部資金を獲得しなければならない状況である。そこで、科研費申請に向けて、あなたが考えているテーマと計画等について示してほしい。

## 1. 目標・計画

教員就職支援の立場で外部資金を獲得して研究していくことが可能な分野は限られている。「教職実践演習における理論と実践の有機的な統合を図るための授業方法の開発」等が考えられる。

- ① 授業内容に応じた効果的な授業形態・授業方法の在り方
- ② 学校や教育委員会と連携した取り組みの在り方
- ③ ティーチングアシスト(TA)の活用方法 等

これらについては、教員就職支援の内容と重なるところがあるので、この分野での研究が本学でなされるのであれば参画が可能である。

## 2. 点検・評価

「教職実践演習」の施行に向けた試行的研究等、私の職務である「教員就職支援」の内容との関係で共同研究可能なテーマが考えていたが実現できていない。

## I-2. 大学院学生定員の充足に向けた取り組み

専攻・コースのこれまでの大学院学生定員の充足状況を踏まえた上で、あなたは定員充足のためにどのような取り組みを行うか、具体的に示してほしい。

## 1. 目標・計画

教員就職支援の立場での取り組みとしては、大学院生の教員就職率を向上させ、本学大学院への進学希望者を増やすことである。

- ① 大学院生に対する個別の就職支援、相談の充実を図る。
- ② 教授対策ガイダンスにおいて筆記問題対策、個別の論作文の添削指導、個別の2次試験対策(模擬授業、個人面接等)の指導の充実を図る。
- ③ 大学院生同士、大学院生と学部生の連携、協力体制による模擬授業・集団討論等の取り組み等を充実させ、教員就職への意欲の向上を図る。

## 2. 点検・評価

本学大学院生の教員就職率を向上させることにより、本学大学院で学ぶ魅力やメリットが伝わり、大学院進学希望者を増やすことができると考え次の取り組みを行った。

- ① 2人のアドバイザーとともに大学院生に対する個別の就職支援、相談等の面談をきめ細かく行った結果、教員就職希望者の合格率向上につながった。
- ② 個別の論作文の添削指導、個別の2次試験対策(模擬授業、場面指導、個人面接等)をきめ細かく行った結果、最終合格者が増加した。
- ③ 大学院生と学部生の連携、協力体制による自主的な教授対策勉強グループへの働きかけや支援をきめ細かく行い、自主的に学びつづける姿勢や、教員就職への意欲を高めることができた。
- ④ 教員養成特別コースの大学院生については、個別の就職支援を行う時間の確保が難しく、十分な成果を上げることができず課題が残った。
- ⑤ 今後、不合格者に対する臨時教員就職についての支援をきめ細かく行い、教員就職率向上を目指していく。

## II. 分野別

### II-1. 教育・学生生活支援

#### 1. 目標・計画

##### 年度目標

- ① 教員採用試験(審査)において学校教育学部生の正規合格者50%以上を目指す。
- ② 学校教育学部生の教員就職率75%以上を目指す。
- ③ 教採対策ガイダンスの内容・使用資料等を検討・改善し、その充実を図る。
- ④ 各都道府県・政令市の教員採用試験の方法や内容を分析し、学生への相談に応じる。
- ⑤ 教員採用試験に課せられる一般教養問題、教職教養問題、集団・個人面接、模擬授業、場面指導、論作文、自己PR文等の指導の充実を図る。
- ⑥ 臨時教員希望者に対する説明会、個別の教員就職ガイダンスの充実を図る。

#### 2. 点検・評価

- ① 正規教員合格者は48.2%にとどまった。兵庫県、神戸市、香川県などでは増加となったものの、徳島県では前年を下回る12名と厳しかった。
- ② 今春卒業した学校教育学部生の教員就職率は目標である75%を大きく超え、過去最高の80.00%となった。
- ③ 教員採用試験で出題が予想された生徒指導提要(文部科学省)や最新の中教審答申(キャリア教育、安全教育)など最新の情報を取り入れた教採対策ガイダンスを実施し、好成績を上げることができた。
- ④ 教員採用試験の各自治体の情報等については、各ガイダンスの冒頭に最新情報を示すとともに個別の相談の機会を通じて周知を図ることができた。
- ⑤ 本年度は論作文の添削指導、各自治体ごとの実施形態に応じた場面指導、個人面接指導を充実することができた。
- ⑥ 本年度も臨時教員希望者に対するガイダンスを11月に行った。今後、卒業後の就職状況の把握と未就職者に対する就職の働きかけを行っていく。

### II-2. 研究

#### 1. 目標・計画

- ① 学校教育学部における教員就職状況の追跡・考察を行い、今後の教採対策に役立てる。
- ② 教員就職希望の多い都道府県・市の教育委員会の訪問、説明会の開催などを通して、教員採用方針や今後の採用状況の動向について把握する。
- ③ 教採実技ガイダンスにおける効果的な演習形態・演習方法の在り方  
(以上の研究は、教員就職率の向上に資する上で重要なものである。)

#### 2. 点検・評価

- ① 学部卒業生の教員就職状況については、卒業時に配布した葉書の返信、本人との電話連絡等により把握に努めた。臨時教員として就職している卒業生21名からの合格連絡が入った。今後とも卒業生の就職状況の把握に努めていく。
- ② 多くの学生が受験する各都道府県・政令市の教採担当者を招いての説明会の開催(4月～5月)、教育委員会を訪問しての情報収集(11月～12月)、合格した学生からの聞き取りなどを通してより早く、より多く、より正確な採用情報の把握ができた。次年度の採用試験の説明会を1月～2月にも実施する自治体が増加してきており、学生に周知しているが授業の関係などを出席できないなどの課題が残った。
- ③ 二次試験対策において、自治体ごとの実施内容に応じた実践的な実技演習(模擬授業、場面指導)や個人面接を実施することができた。実施会場の確保に苦労を要した。

## Ⅱ-3. 大学運営

### 1. 目標・計画

- ① 就職委員会及び学生支援委員会委員として、本学の運営に貢献する。

### 2. 点検・評価

- ① 就職委員会委員として、教採実技ガイダンス、二次対策ガイダンス等において、最新の資料を準備・提供し実施することができた。
- ② 学生支援委員会委員として、学校教育学部2年次生合宿研修において、講義・演習等を行い、学生の就職活動についての意識を高めることができた。

## Ⅱ-4. 附属学校・社会との連携、国際交流等

### 1. 目標・計画

- ① 附属学校での教育実習前に「教育実習と教員採用試験との関係」についてガイダンスを実施し、教育実習の重要性を認識させる。
- ② 附属学校教員の指導力向上について指導・支援するとともに、学生の実地教育について就職支援の立場から連携して取り組む。

### 2. 点検・評価

- ① 附属学校での教育実習前の7月に教採対策ガイダンス(準備編)を実施し、教員採用試験における教育実習の重要性を認識させることができた。
- ② 教育実習においては教員採用試験に求められる「学習指導力」を向上させることに加え、近年特に若い教員の「生徒指導力」や「学級経営力」の向上が求められていることを踏まえ、それらの教育実践の充実について附属学校の教員と連携して取り組むことができた。

## Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)

平成24年3月学部卒業者の教員就職率が80%となり、3年連続して全国第一位となった。教員就職率80%は極めて高い数値であるが、その中には臨時教員として就職した者が35名いる。そのうち20名を超える者から、教員採用試験に合格できたとの喜びの連絡を受けた。卒業後1年目で多くの者が採用試験に合格できていることは、学生時代に培った「仲間と一緒に教員になりたい。」という強い情熱を持ち、学校現場で実践を重ねながら学び続けてきた結果であると確信している。今後も本学の高い教員就職率を維持するため、学生時代の学びの充実を図っていきたい。